

こんしゅう おし
今週のことば「**教え**」

せいし ふくいんし
《聖書》マルコによる福音書 1:21-28

りっぼう がくしゃ
律法学者

じだい ひとびと りっぼう
イエスの時代の人々にとって、律法
がくしゃ かいどう きょうし りっぼう いまし
学者は会堂の教師であり、律法の戒めを
かいしゃく やくわり は
解釈する役割を果たしていました。イス
れきし なか きかん
ラエルの歴史の中で、ある期間イスラエ
たみ ちゅうしんてきぞんざい
ルの民の中心的存在であったエルサレム
しんでん ほうかい ひとびと は
の神殿が崩壊し、人々がバビロニアへ補
しゅう りっぼう いまし せいかつ
囚されましたので、律法の戒めが生活の
きばん ひとびと
基盤となっていました。しかし、人々
もじ よ りっぼう いまし りかい
は文字も読めず、律法の戒めも理解でき
ひとびと りっぼう よ
ませんでしたので、人々に律法を読んで
き また いみ せつ
聞かせ、又、その意味をわかりやすく説
めい りっぼうがくしゃ ひつよう
明する律法学者が必要となりました。

ほしゅう きかん きじ
バビロニアの補囚からの帰還の記事は、
き つた
エズラ記で伝えられていますが、エズラ
りっぼう くわ しよきかん じん
はモーセの律法に詳しい書記官として民
しゅう し どうしや しよきかん
衆の指導者となりました。この「書記官」
せいし つた さいし りっぼうがくしゃ
が聖書で伝えている最初の律法学者です。

おし おこ
教えと行ない

りっぼうがくしゃ ちが
イエスと律法学者との違いはどこにあ
りっぼうがくしゃ きょう
るのでしょうか。律法学者はユダヤ教の

い つた したが りっぼう かいしゃく
言い伝えに従い、律法を解釈していまし
い つた
た。イエスは、言い伝えにとらわれない
ひとり ひとり じんげん たいせつ
で、一人一人の人間を大切にするために
おし また おし
はどうしたらよいかを教え、又、教える
みづか おこ ひとびと も
だけでなく自ら行ないによって人々に模
はん しめ きょう れきし
範を示しました。キリスト教の歴史にお
きょうぎ つく こてい
いても、教義が作られ、それが固定した
おし まも
教えとして守られてきました。しかし、
げんじつ せいかつ はな しんこう
それでは現実の生活とはかけ離れた信仰
だいに こうかい
となっていました。第二バチカン公会
ぎ げんじつ すなお みと きょうかい
議は、こうした現実を素直に認め、教会
じんげん げんじつ こた しんこう も
が人間の現実に答えられる信仰を持つこ
さが はじ
とができるように探し初めました。
い ぜん こうきょうよりり まな き ひと
以前に公教要理を学んで来た人にとっ
ふ あん きも お
ては、なにか不安な気持ちを起こさせる
じだい
ことかもしれませんが、イエスの時代の
りっぼうがくしゃ たいど も はん
律法学者のような態度を持たないよう反
せい ひつよう い つた
省する必要があるのです。言い伝えがま
い つた
ちがっていたというのではなく、言い伝
じんげん げんじつ たいおう
えにこだわるあまり、人間の現実に対応
おこ もんだい
した行ないができないことが問題なので
す。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第4主日B年（滝野）